



©Wataru Yamamoto, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

山本 涉 「春/啓蟄」

会期：2014年7月25日（金） - 8月23日（土）

夏期休廊：8月10日（日） - 8月18日（月）

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

トークイベント&オープニングレセプション：7月26日（土）

2014年7月25日（金）より、ユミコチバアソシエイツでは山本涉の個展「春/啓蟄」を開催致します。

写真を媒体に多岐に渡る作品展開をしてきた山本涉は、熊野古道の原生林の中でセルフポートレートを撮影した「線を引く」、植物に高周波・高電圧をかけその放電により発生した光を記録した「光の葉」「プラタナスの観察」、男性用の自慰道具の内部に石膏を流し込み型取りした立体物を撮影した「欲望の形」など、いくつかのシリーズをほぼ同時期に展開してきました。その作品ごとに異なる技法的試みは、既存の写真の枠組みにとらわれずに空間、物質、思想、文明そして自己の、厚みのある記録を行うためのバリエーションであり、時代や文化によって多様に変化する自然という概念に対して改めて“とる”（撮る/取る/採る etc..）ことについて考えねばならないとする作家の強い姿勢が見てとれます。

光/熱の源泉である太陽がもたらす自然現象を、皮膚感覚のように直に捉えようと試みた本作は、視覚的に非常に美しいものでありながら、そこに収斂すること無く天為と人為の狭間にあるものを鑑賞者に問いかけます。本展では2014年の冬から春にかけて撮影されたものから約10点を選び、展示致します。

尚、今回の個展に合わせ、山本涉と写真家/著述家・港千尋氏によるトークイベントを開催致します。

■コンセプト

冬の山中で凍えて夜を明かした日、山間から射した朝日の肌にしみ込むあたたかさが強烈に印象に残っており熱源としての太陽への欲求に気づきました。以来、太陽の光と温度変化がもたらす現象を皮膚感覚のように直接捉えたいという欲望があります。

「春/啓蟄」は、水とカラーフィルムを皮膚の代わりにして太陽の光と温度変化を捉える試みです。その内容を一言で言えば「水に浸して凍らせたフィルムで太陽を撮影した写真」ですが、写真は水の氷への体質変化に伴うフィルムの変形や、氷の紋様、露光中に溶けて流れる水の乱反射などの影響を受けて時間をかけて生成されます。また撮影にはピンホールを用いており、レンズを通したイメージの光ではなく、穴から取り入れた太陽の光で凍ったフィルムを溶かしつつその熱源の太陽を写しています。

タイトルの「春/啓蟄」は、熱で氷が溶かされ暗い場所にあったフィルムが現像されてあらわになる過程が、春の生物の活動を連想させて名付けたものです。制作も三月初旬の冬から春に変わる「啓蟄（けいちつ）」の時に開始しました。木々の芽が樹皮を割り、冬ごもりの虫が地中からはい出るこの時期を「啓（ひらくこと）」と「蟄（とじこもること）」の2文字で示すこの言葉は、日本語を母国語とする私にとって冬から春にかけての季節の微細な変化を非常に豊かで濃密な



イメージで想像させます。春という季節、あるいはその感覚、現象を主題とした作品は多々ありますが、私は自分の皮膚感覚と啓蟄という言葉のイメージをたよりにして春というテーマに挑みます。

山本 渉 2014 年 7 月

■トークイベント 山本 渉 (写真家) × 港 千尋 (写真家/著述家)

日時：2014 年 7 月 26 日 (土) 18:00-19:30 ※事前予約制

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

参加費：無料

【お申込み方法】

件名「山本トークイベント」、お名前、電話番号をご明記のうえ、event@ycassociates.co.jp まで、メールでお申し込みください。

※1 通につき 2 名様までお申込みいただけます。その際は 2 名分とご明記ください。

※定員 (20 名) になり次第、受付を終了いたします。

※ギャラリーからの返信メールが届かない場合は、営業時間内にお問合せ下さい。

■プロフィール

山本 渉 (やまもと わたる)

1986 年 栃木県生まれ。

2013 年 多摩美術大学大学院博士前期課程修了。

2011 年 写真新世紀・佳作受賞。

[個展]

2013 年 プラタナスの観察, Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku (東京)

2013 年 線を引く Drawing a Line, photographer's gallery (東京)

2012 年 山本 渉 展, ギャラリーANOTHER FUNCTION (東京)

[グループ展]

2014 年 TOKYO2020, Christophe Guye Galerie (チューリッヒ)

2013 年 LIVING WITH PHOTOGRAPHY, 伊勢丹新宿店 (東京)

2013 年 LIMIX MEETS / TOKYO 2020 BY JAPANESE PHOTOGRAPHERS 9,
1 RUE RICHELIEU, HILLSIDE TERRACE / HILLSIDE FORUM (パリ、東京)

2012 年 3331 TRANS ARTS, 3331 Arts Chiyoda (東京)

2011 年 キャノン写真新世紀 2011, 東京都写真美術館 (東京)

2010 年 126 POLAROID さよならからの出会い, 横浜美術館アートギャラリー (横浜)

[アートフェア]

2013 年 Japanese Contemporary Art Fair "NEW CITY ART FAIR Taipei, Taiwan 2013" (台北)

港 千尋 (みなと ちひろ)

1960 年生まれ。1995 年より多摩美術大学情報デザイン学科教授。オックスフォード大学客員研究員。著書・作品集多数。記憶とイメージをテーマに、映像人類学など幅広い活動をつづけている。近著に『芸術回帰論』(平凡社新書)『ヴォイドへの旅』(青土社)。最近の展覧会に『AABB』(Howl Space 台南 / PLACE M 新宿)など。台北ビエンナーレなど国際展のキュレーションも行い、2007 年には第 52 回ベネチア・ビエンナーレ日本館コミッショナーを務めた。

【本展に関するお問合せ】

ぜひ貴社にて御紹介くださいますようお願い申し上げます。尚、御質問および画像データの御依頼は下記までご連絡下さい。

ユミコチバアソシエイツ 担当：鈴木孝史

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿#316 Tel：03-6276-6731 e-mail：

info@ycassociates.co.jp website：www.ycassociates.co.jp 営業時間：12:00-19:00 定休日：日、月、祝日